

横田基地、第47回「日米友好祭」を開催 *Yokota hosts 47th annual Japanese-American Friendship Festival*

May 22, 2023

By Tech. Sgt. Taylor A. Workman
374th Airlift Wing Public Affairs

5月20日と21日、第374空輸航空団が開催した第47回「日米友好祭2023」に、来場者19万3000人以上が訪れた。

2日間にわたる基地開放日には、航空機の地上展示、ライブ音楽、フード屋台の出店や各種のエンターテインメント、また米軍と自衛隊が部隊の即応能力を実演する飛行展示などが行われた。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は、「今年の日米友好祭をめざましい成功に導いた、参加者、ボランティア、そして言うまでもなく地元と来日した航空機の乗員一人ひとりに感謝を示したい」「我々の基地、文化、そして使命を日本の皆さんに知っていただく機会が設けられたことをとても嬉しく思う。日米友好祭は、皆さんの継続的な支援に感謝を込めた催しである」とコメントした。

開催中、太平洋空軍のF-16「バイパー」実演飛行チームによる飛行展示や、横田基地所属のC-130Jスーパーハーキュリーズが飛行場上空から陸上自衛隊の数十人の空挺隊員を投下するなど、飛行展示が数回にわたって行われ、会場を盛り上げた。

また今年の日米友好祭には、陸上自衛隊、航空自衛隊、米空軍、海兵隊、海軍の各部隊と地元のコミュニティーが協力した。

作戦システム運用隊司令兼航空自衛隊横田基地司令の石井浩之1等空佐は、「横田基地で米軍と一緒に勤務をし始めてから昨年で10年が経った」「今年は、次の10年を共に歩んでいくための第一歩の年だというふうに認識している。横田基地の米空軍のダイナミックさ、そして、共に勤務する航空自衛隊の緻密さ、この日米双方の良いところがコラボレーションできていて、しっかり連携できているというところを肌で感じてもらえればと思っています。横田基地が日米共同の要であるということを知っていただく絶好の機会だというふうに思う」とコメントした。

航空自衛隊ブルーインパルスのエリート・アクロバット飛行チームも、T-4中等練習機と共に参加した。宮城県松島基地を拠点とするブルーインパルスは、航空自衛隊のC-130H等の地上展示飛行機に並んで展示された。

基地を一般開放する日米友好祭は、チーム横田と周辺地域が一体となり、相互理解と協力関係を深める特別な機会だ。

年に一度開催されるこのイベントに参加するため、遠方から飛行機でやってきた人もいた。そして今、ソーシャルメディアは、友情に満ちた友好祭の写真やビデオで溢れている。

ラダン大佐と石井1等空佐は、日米同盟を強固にし、インド太平洋の中心にある日本の繁栄の維持に資する活動を支援するためには、友好関係が不可欠であるとの認識で一致した。

